

診療科目：小児科

カテゴリ - : 初期研修、必修科目、選択科目

期 間：1ヶ月以上

一般目標：日常診療における病歴聴取、診察（理学所見）、処置、検査、鑑別疾患、初期治療といった基本的な小児内科的診療技術の習得を目指す。しかし、小児科診療においては、下記に示すような特徴があり、こういった特徴をよく理解し、小児プライマリーケアの基本を身に付けることを目標とする。

- (1) 父、母、祖父母など“保護者”という第三者が常に患者の間に存在しており、患児より直接問診の情報は得られにくい。
- (2) 子供は、常に成長・発達しており、その正常範囲の成長・発達をよく理解する必要がある。
- (3) 年齢・時期によって出現する疾患やその病態生理は異なり、当然のこととして、治療内容や投薬量なども違ってくる。

小児科スタッフよりの希望

- 1、新生児から中学生までという幅広い年齢の小児の診療や処置に慣れること。
- 2、肺炎、気管支炎などの呼吸器疾患、胃腸炎疾患などの感染症、けいれん疾患、気管支喘息などを中心に、基本的な頻度の多い小児疾患をできるだけ多く受け持つこと。
- 3、小児科以外の専門分野に進んでも、小児診療にせまられることがあると思われ、小児患者のプライマリーケアがある程度できるようになること。

を希望します。

A. 指導体制

1. スタッフ

役 割	氏 名	職 名	医師登録年月日
科目責任者	紺井 正春	小児科診療部長	1976年7月1日
指 導 医	窪田 博道	小児科部長代理	1982年11月18日
指 導 医	今村 博明	NICU 診療部長 小児科部長待遇	1984年6月5日
指 導 医	上勢 敬一郎	小児科医長	1994年5月2日
指 導 医	樋口 収	小児科医長	2001年5月11日

B. 指導原則・方法

1. 小児科病棟及び NICU の患者を担当し、同病棟の医療スタッフとして指導医の下で診療にあたる。
ただし、あまりに専門的な病態の患児は受け持たず、プライマリーケアを中心に、基本的な疾患の診療にあたる。選択科として研修する医師の場合は、専門的な病態の患者も受け持つこともある。
2. 小児科一般（初診・再診）外来はもちろんのこと、各専門外来にも参加し、採血や点滴などの処置や診療補助・検査補助を行う。特に、選択科として研修する医師は、午後の専門外来にも積極的に参加をする。
3. 月に数回の日直・当直を行い、当院の救命救急センターにおいて指導医のもとで救急患者の診察にあたる。プライマリーケアを中心に、基本的な疾患の診療にあたる。
4. 乳児健診や予防注射にも参加する。
5. 小児科病棟カンファレンスに参加し、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
6. 週 1 回の産婦人科との合同の周産期カンファレンスに参加する。
7. 高岡小児科医会症例検討会、呉西小児科集談会、富山地方会、北陸地方会、富山県小児科医会などにも積極的に参加し発表する。

C . 週間スケジュール(表)

曜日・時間	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
月		病棟、外来						病棟、一般外来 循環器外来						
火		病棟、外来						病棟、健診 予防接種						
水		病棟、外来						病棟 アレルギー外来			病棟 カンファ			
木		病棟、外来						病棟、未熟児外 来、神経外来			周産期 カンファ			
金		病棟、外来						病棟 循環器外来						